

公益財団法人東京都交響楽団第15回定例評議員会 議事要旨

- 1 日 時 令和7年6月27日(金)
14時30分から15時22分まで
- 2 場 所 エステック情報ビル21階D会議室(東京都新宿区西新宿1-24-1)
及びウェブ会議システム(Webex)

- 3 出席者 評議員数 9名 定足数 5名 出席 8名
- 出席者 片岡 容子
坂本 雅彦
長木 誠司
早坂 義弘
- ウェブ会議による出席者
青柳 有希子
大崎 滋生
中嶋 義雄
福島 理恵子
- 欠席者 河村 潤子

監 事

- 出席者 井上 直
- ウェブ会議による出席者
辺土名 厚

理 事

- 出席者 近藤 誠一
佐藤 直樹

4 議事の経過及び結果

審議に先立ち、評議員の互選により、議長に片岡評議員が就任し、議事録署名人に大崎評議員と長木評議員を指名した。

【第1号議案】 2024年度 事業報告書及び財務諸表について

(1) 内 容

2024年度 事業報告書及び財務諸表を、議案のとおり承認する。

(2) 質疑応答・意見等

青柳評議員：

都と連携した学校での演奏会について、開催地域の多摩地域と23区とのバランスはどのようになっているか。

事務局：

音楽鑑賞教室については、地域的な偏りはあまり見られない。ただし、小規模演奏会に関しては、区部での実施が多い印象である。

青柳評議員：

障害のあるお子さんを対象とした演奏活動も実施されていると伺っているが、多摩地域と23区で機会に偏りが出ないように配慮いただきたい。特に多摩地域では、距離などの理由から音楽活動に参加しにくいお子さんも多いため、ぜひ機会を提供していただければと思う。

事務局：

ご意見ありがとうございます。

長木評議員：

2023年度実績と比較し、依頼公演の回数が減少した理由は何か。

事務局：

主な要因としては、新国立劇場でのオペラ公演が実施されなかったことが挙げられる。今年度は再び実施される予定であり、依頼公演の回数も従来水準に戻る見込みである。昨年度の実績はややイレギュラーなものであるとご理解いただければと思う。

(3) 結果

出席評議員全員異議なく可決承認された。

【第2号議案】 役員の選任について

(1) 内容

役員の選任について、議案のとおり理事3名（荒木淳子、小林真理、箱田英子）を選任する。

(2) 質疑応答・意見等

なし

(3) 結果

定款第18条第3項に基づき候補者ごとに決議を行った結果、理事3名（荒木淳子、小林真理、箱田英子）の選任が出席評議員全員異議なく可決承認された。

5 報告事項

- 事務局より、2025年度事業計画書・収支予算書 資金調達及び設備投資の見込みについて報告がされた。

[質疑応答・意見等]

なし

- 事務局より、東京都交響楽団中期経営計画の実施状況について報告がされた。

[質疑応答・意見等]

福島評議員：

都響の設立から60周年を迎えたが、現在では、都内に多くの著名な民間オーケストラが存在しており、首都・東京の音楽文化の象徴として、文化の発展に貢献し、最高水準の音楽を提供するという都響の役割は、個人的には60年前と比べてやや薄れつつあるように感じている。

私自身も都響の演奏会を何度か鑑賞させていただいており、素晴らしいと思っているが、鑑賞される方は、比較的高齢で、時間に余裕のある方が多い印象を受けている。都税を投入し、都響を存続させるにあたっては、より幅広い都民にとって意義のある存在とする取り組みが不可欠ではないかと考えている。

前回の評議員会でも申し上げたが、都響は、都内の民間オーケストラも含めた音楽文化全体の発展に寄与する役割を担うべきだと思っている。そのためには、演奏者も鑑賞者も、丁寧に育てていく必要がある。そういった観点からも、「青少年育成と多様性のある社会の実現に貢献」ということは非常に大事である。マエストロ・ビジットや、青少年を招待するヤングシート事業は、将来の演奏者も鑑賞者を育成するうえで、極めて重要な取り組みだと思っている。

そこでご提案だが、マエストロ・ビジットについては、「なぜマエストロに来てほしいのか」という理由を述べてもらい、そういった熱意のある場所に訪問する仕組みにしてみたいか。また、「ヤングシート事業」は過去最高の応募数だったと伺ったが、現状は抽選方式とのことなので、こちらも「なぜその楽曲を都響で鑑賞したいのか」といった動機や思いを重視する仕組みにすることで、将来の担い手となる人に確実に届く形にブラッシュアップできるのではないかと考える。

事務局：

ご提案ありがとうございます。ご指摘を念頭に置いて検討していきたい。

早坂評議員：

事務局から「優秀な楽員の採用」や「都響のプレゼンス向上」といった説明があったが、良い方向性だと感じている。そこでお伺いしたいのだが、現在の都響の楽員における外国人の割合および女性の割合はどの程度か。

事務局：

外国人の割合は約3%、男女比はほぼ半々となっている。

早坂評議員：

優秀な楽員の採用という点についてだが、率直に申し上げて、やはり報酬水準が一定以上であれば、より高い人材ニーズが集まるものだと思う。もちろん、報酬の多寡が全てではないが、処遇改善は採用力の強化につながる。

仮に、都響の楽員の処遇改善が本格的に実現されたとすれば、国内外でのプレゼンスも一層高まり、世界中から「都響で修行したい」と考える演奏家が集まるようになると思う。外国人の採用比率を上げることを自体を目的とするわけではないが、プレゼンスを高めるということであるならば、まずは処遇改善かと考える。理事長から方針をお示しいただけると有難い。

理事長：

物価の上昇などを踏まえ、経済的な処遇の改善については、様々な面で取り組んでいきたいと考えている。また、国際的な経験を積む機会としての海外公演など、将来を見据えたプランもあるが、現実には多くの制約があり、簡単なことではない。とはいえ、オーケストラという「人間の集団」においては、人材の育成と確保が「カギ」である。引き続き、処遇の改善と優秀な人材の確保に取り組むとともに、様々なプログラムを通じて楽員のモチベーションの向上を図っていく。

大崎評議員：

以前の評議員会でも触れたことがあるかと思うが、「入場者数」や「入場率」についてお伺いしたい。定期会員の方は、基本的には毎回ご来場されると思うが、実際の「入場者数」は、販売したチケットの枚数とは必ずしも一致しないという説明があったと記憶している。昨年6月28日に開催された第1002回定期演奏会の入場率が58%と、かなり低い数値になっていた。この場合、定期会員の方はどのくらいの割合を占めていたのか、また売上はどの程度だったのかお聞きしたい。当然、購入していても来場されなかった方もいらっしゃるかと思うが、たとえばプログラミングとの関係など、どう分析されているのか。

事務局：

ご指摘のとおり、定期Cシリーズの中でも、この日の公演は特に入場率が低くなっていた。おそらく「平日昼間」の開催であった影響が大きかったのではないかと考えている。同じCシリーズでも、他のプログラムでは8割から9割の入場者率なので、日程が影響していると見ている。

大崎評議員：

定期会員は、この58%のうち、どの程度を占めているのか。定期会員はどの公演もだいたい同じくらいの人数だと思うが、その都度チケットを購入して来場された方の割合や、演奏される曲目との関係性についてもお伺いしたい。入場者率については、例えば70%台の回もあれば90%を超える回もあり、集客状況が二極化している印象を受けた。このような入場者率の違いについて、事務局としてどのように要因を分析されているのか。

事務局：

おっしゃるような傾向が見られると思う。C定期については、土日祝日の昼間に開催される回と、平日の昼間に開催される回が混在している。そのうち、平日昼間に開催される回は年間で3回あるが、出演者や曲目、ソリストの内容によっては多くのお客様が来場されることもあり、一概には言えない。定期会員の方々は、あらかじめ平日昼間の公演を含むスケジュールを承知のうえでご購入いただいているため、毎回一定の来場数はある。概ね1,000名近くはいらっしゃるものと見込んでいる。

ご指摘の6月28日の公演に関しては、ソリストの出演がなかったことに加え、指揮者がチェコ出身で、チェコの作品を中心とした比較的珍しい曲目が並んだため、一回券を購入して来場されるお客様の割合が、他の回に比べて少なかったと分析している。平日昼間の開催であっても、回によっては満席に近いお客様にご来場いた

だくこともある。今後、平日昼間に公演を行う際には、一般の方が一回券でも「行ってみたい」と思えるような内容を企画していくことが必要だと考えている。

大崎評議員：

理想を言えば、せっかく質の高い演奏をしているのだから、毎回満席となるのが望ましい。より多くの方に足を運んでいただくことを目指すべきである。平日昼間の開催であることや、プログラムの内容など、さまざまな要因が影響していると思うが、長期的に見ても入場者数に大きなばらつきが出ないように、経営面での工夫や努力をしていただきたい。

事務局：

以前、ご指摘をいただいた際にご説明申し上げたが、完売となった公演であっても、定期会員の方のうち約1割が当日来場されない。これは、当日のご都合や体調不良など様々な事情によるものであり、これをどう解決していくか、この点については、他のオーケストラも含めて取り組んでいるところである。

大崎評議員：

以前も申し上げたことではあるが、例えば当日限定で無料入場を認めるなど、空席対策としての工夫が考えられるのではないか。先ほど都議会議員の方からもご提案があったように、若い世代や音楽を学ぶ学生などを対象に、何らかの条件を設けたうえで受け入れる仕組みを検討してはどうか。もちろん「誰でも無料で」というわけにはいかないかとは思いますが、できる限り空席を減らすような努力をしていただきたい。

事務局：

できる限り空席を減らすよう取り組んでいく。

以上をもって議案の全部審議及び報告が終了したので、議長は15時22分閉会を宣し、解散した。